

**2010年1月20日に神戸市に於いて開催された
日本 SAARC 防災シンポジウム「SAARC 域内における域内防災協力の枠組み」における
提言**

ハザードマップ、脆弱性マップ及びリスクマップは、リスクに直面する一般市民やコミュニティを含む政策立案者、政策決定者及び災害管理者にとって危機管理のための非常に有効なツールであることを認識しつつ、2010年1月20日に開催された「日本 SAARC 防災シンポジウム」の参加者は、以下を提言した。

SAARC各国に対する提言

1. ハザードマップ、脆弱性マップ、リスクマップを開発・利用するために人的、制度的及び運用能力を組織的に強化する。
2. 国家から地方までの全てのレベルにおいて、容易かつより広範囲なアクセスを可能とするための技術と情報を共有し、普及させるために適切なアプローチや方法論、戦略及び計画についての理解や認識を構築する。
3. 防災分野における「連結性」を向上させるため、(域内で) 統一された基準による地図に基づき、地域内における防災の手段として、ハザードマップ、脆弱性マップ、リスクマップを開発し利用するための地域内協力をより一層促進する。

開発パートナーに対する提言

本シンポジウムは、関連する国連機関や他の開発パートナーが、適切な財政支援及び技術支援によって、SAARC 災害管理センターが南アジアにおける地域内デジタル脆弱性マップを開発するイニシアティブの支援を要望する。